



TITLE:

第48回基研運営委員会報告

AUTHOR(S):

CITATION:

第48回基研運営委員会報告. 物性研究 1969, 12(6): 451-455

ISSUE DATE:

1969-09-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/87210>

RIGHT:

基研数研共同利用研究員宿舍利用手続（基研案）

7 手続きの再検討

この手続きは，1年間の利用経験のあとで再検討するものとする。

付 表							
月	水 木	月	月	木	月	月	日
→							
長期優先滞在付 け	受け開始			受け開始		利用希望日	
(x 人)	(17-x人)			(5 人分)			

第48回基研運営委員会報告

1969年6月28日

於 基研コロキウム室

議長	湯川 秀 樹
出席者	朝永振一郎， 中嶋貞雄， 久保亮五， 小川修三， 高木修二， 碓井恒丸， 小林 稔， 井上 健， 牧 二郎， 松田博嗣， 玉垣良三
欠席者	田中 一， 坂田昌一， 中村誠太郎（外国出張中） 小谷正雄（外国出張中）

1 研究部員会議報告と承認

報告が行なわれ，承認された。

尚，CRC 実行委員より暫定核特委の性格に関する見解の文書が運営委員会宛に送られてきており，内容が紹介された。

資 料

2 次期運営委員の決定

次の方々にお願いすることになった。

(敬称略)

素粒子・原子核関係(10名)

(学 外) 小川修三, 坂田昌一, 田中 一, 内山竜雄

(学識経験者) 武谷三男(交渉中)

(学 内) 牧 二郎, 玉垣良三, 小林 稔, 高木修二, 井上 健

物性関係(6名)

(学 外) 森 肇, 豊沢 豊

(学識経験者) 永宮健夫

(学 内) 松田博嗣, 松原武生, 碓井恒丸

任期は、昭和44年8月1日より、昭和46年7月31日迄。

3 助 手 選 考

選考の結果、岩崎洋一氏を推薦することに決定した。

4 後期アトム型研究員選考

下記のように決定した。

倉田泰幸(東北大 理 助手) 2ヶ月

蔵本由紀(九大 理 助手) 40日

桜岡 充(東北大 理 D1) 2ヶ月

柘植昌保(阪大 基ソ工 D3) 2ヶ月

植山 宏(阪大 教養 助手) 2ヶ月

大成逸夫(東大 教養 D3) 1ヶ月

宮崎 忠(東久 理 D2) 40日

吉井博明(東工大 理 D2) 1ヶ月 以上

5 基研のあり方、大学問題と共同利用研のあり方について

湯川 。京大に総長の諮問機関として大学問題検討委員会が置かれることになった。①大学の未来像, ②教養部のあり方, ③総長選挙, について検

討するということだ。基研は、京大 Proper の会議には出ない方が
良いと思うが、つんぼさじきもよくないので、大学の未来像の部会に
参加することにして松田氏が出席されることになった。今朝第1回の
委員会が開かれ小沼氏が代理で出席されたが、大学の未来像について
も、京大 Proper の比較的近い将来について考えるようだ。これにつ
いての参考意見があれば出していただきたい。

- ・ 来年3月で私が停年退官になるので、次期所長の問題、後任教授のあ
り方について議論していただきたい。所長の任期、性格、機能につ
いて今までと変わってもよいので、自由に話を出していただきたい。
- ・ 学審から共同利用研究所を国立研究所にするという案が出ているらし
い。全文を見ていないのではっきりわからないが、big science
だけを考えて、比較的小さな研究所のことは忘れられているのではな
いか。

朝永 学審は小さな研究所も共同利用研として必要であり、国立の研究所に
する。その場合、運営方法は良く考えられねばならない、としている。

高木 大学改革の中で共同利用研についての京大の考えはどう動いているか。
統制を強める方向になっているのでは――

湯川 まだ研究所の問題は十分議論されていない。

高木 学審案には、流動性を強調して、共同利用研のことが出てきているよ
うに思えるが。

朝永 学審は学部を無くし、学科単位にする。いくつかの学科にまたがる境
界領域を系統的に研究するところとして共同利用研を置く考え。しか
し、境界領域を研究していても固定化する恐れがある。

湯川 基研の任期制は、最近言われている審査制とは違う。ここは、公募さ
れるときから任期が決っており、誰が選ばれても同じだ。審査制には
弊害が多いのではないか。

小林 Paper 数を競ったりして業績主義になりやすい。

松田 ここが任期制をつけたときは、これを突破口として全国に広めていく、
という主旨だったと思うが、それが生かされていないのではないか。

碓井 名古屋でも任期制について議論するが、教室は共同利用研と立場が違

資 料

う。流動を榮んにして、教室の発展をという話も出るが、教室の伝統を作る。という意見が必ず出る。又、チェックで流動を考えることは、研究室の拡張につながる。

松田 共同利用研のように、環境の恵まれた所は流動すべきだと思う。

碓井 物理教室でも分野によって考えが違ふ。分野によっては動こうにも行き先がないと言われる。

高木 外になくても、任期をつけると否応なく行くところを見つけて行くのではないか。在任期間に伝統を作るべきだ。実験があると難しいが。

湯川 やり易さ、やり難さはあるだろうが、難しいという議論ばかりしていると、実際何も出来ない。

高木 やれるところをやり、one step 終わったら又考えればよい。教養部との交流についても考えるべきだ。

湯川 教養部、学部、研究所の人の rotation があるとよい。

小川 教養部の講義は難しい。大家がやらないとだめだ。

湯川 後任所長の問題について、10月には converge するよう議論を進めていただきたい。

牧 核研は武田氏を所長として迎えたが、大学問題と関連して所長を止められ、一般の所員に戻られたとき任期をどうするかが議論の対象となった。核研は世帯が大きいから、所長の為の空きポストを常に準備することができるが、基研はそういうことはできない。今回、所長として迎えた人に、その後、普通の所員としての任期を考えると、次の所長は他所から呼べなくなる。

碓井 名大では、教授のポストは余っている。それを R. F. に使っているが、こういうポストが方々にあると楽だ。基研だけで考えると難しい。

湯川 所長は誰でもよい。又は誰々でないといけない、という Case がある。今回は来年4月に何らかの変化があることがわかっているから、今から考えをまとめておくことが可能。

(湯川先生退席)

- 運営委員会宛に“湯川先生に基研の実質的所長としてとどまっていたきたい”というCRC実行委の要望書が送られてきており披露された —

- 高木 宇宙線のグループとして、基研に何を希望するか、基研所長はこうあって欲しい、ということをはっきり言った上で湯川先生に所長としてとどまって欲しいと言われるなら話がやりやすいが ………
- 朝永 湯川先生は所長をやめて、かえってやりやすいこともあるので、それをやる。と言っておられる。
- 高木 任期制等の technical なことも含め検討するべきだ。
- 小川 運営委員会も研究部員会議も、湯川先生がおられるときと性格が変わってくるのではないか。
- 小林 湯川先生になっていただくことも可能だ。

(結 論)

所員と議長団で、次回の研究部員会議の為にどういうことを用意するかを考え、必要なら学内運営委員、又は、他の大学の人を呼んだりして準備する。

研究部員会議では一般的討論、運営委員会では少し Practical なことまで議論できるように。

以 上

文責 片岡 韶子